

行政側からみた課題・問題点について

～健幸都市こうしの実現に向けた取り組み～



令和7年3月11日
熊本県 合志市

合志市の基本情報



総面積	53.19km ² (うち約9割が市街化調整区域)
人口	65,160人
世帯数	26,752世帯
1世帯あたりの人員	2.44人

注)2024年12月末現在

若い世代が集う 工業と農業のまち

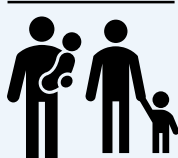
人口
65,000人超



18年連続増加
(市制開始以降一貫して増加)

(出所)合志市住民基本台帳

年少人口比率
18.6% (15歳未満)



県内市 **第1位**

(出所)総務省「令和2年国勢調査」

合計特殊出生率
1.88



県内市 **第1位**
(全国第36位)

(出所)厚生労働省「平成30年～令和4年人口動態保健所・市区町村別統計(人口動態統計特殊報告)」

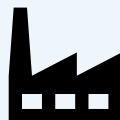
域内総生産
3,670億円



熊本県内
シェア **6%**(県内第3位)
(7年連続増加)

(出所)熊本県「令和3年度(2021年度)市町村民経済計算報告書」(令和6年(2024年)5月10日公表)

製造品出荷額
6,963 億円



県内 **第1位**
(構成比 20.0%)

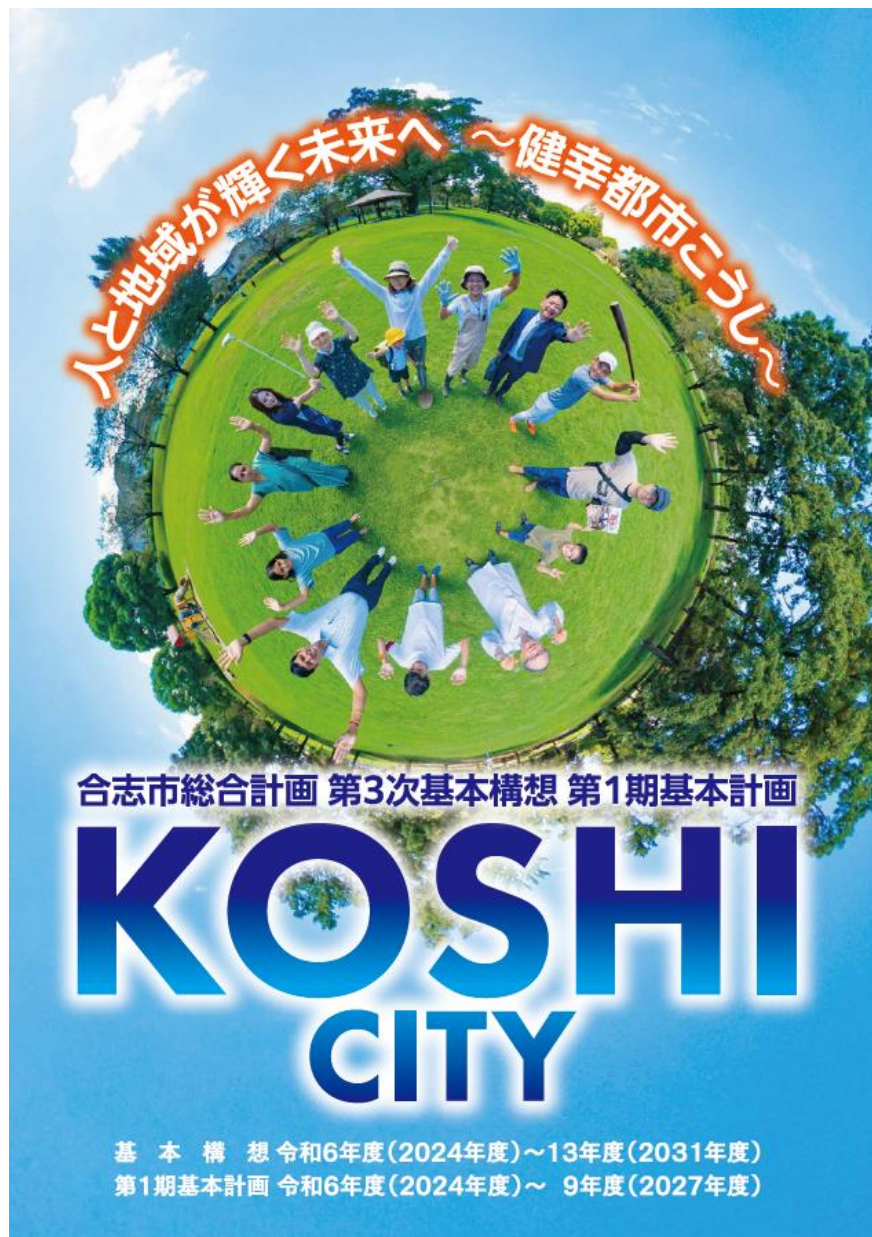
(出所)経済産業省「2023年経済構造実態調査」

農林業総生産額
39億円



県内市 **第1位**
(経営体あたり生産額)

(出所)農林業総生産額:熊本県「令和3年度(2021年度)市町村民経済計算報告書」(令和6年(2024年)5月10日公表)
経営体数:農林水産省「2020年農林業センサス」



合志市の将来都市像

人と地域が輝く未来へ ～健幸都市こうし～



将来都市像を実現するために こんな取り組みを進めます

第1期基本計画の施策体系

めざすまちの姿の実現にむけて、25の施策ごとに指標と目標値を設定し、第1期基本計画の4年間で横断的に取り組む重要課題を3つ設定し、取り組んでいきます。

将来都市像	6つの政策	施策	政策横断的重要課題
人と地域が輝く未来へ 「健康都市こうし」	1 自治の健幸	1.市民参画によるまちづくりの推進	安全・安心に暮らせるまちづくりの推進 「こどもまんなか社会」の構築 産業の共生による市経済の持続的発展
		2.行政経営の推進・改革	
		3.持続可能な財政運営	
	2 福祉の健幸	4.地域福祉の推進	
		5.こども・子育ての支援の充実	
		6.健康づくりの推進	
		7.高齢者の自立と支援体制の充実	
		8.障がい者(児)の自立と社会参加の推進	
	3 教育の健幸	9.義務教育の充実	
		10.生涯学習の推進	
		11.生涯スポーツの推進	
		12.人権が尊重される社会づくり	
		13.歴史・伝統・文化を生かした郷土愛の醸成	
	4 生活環境の健幸	14.防災・危機管理対策の推進	
		15.防災・交通安全対策の推進	
		16.住環境の充実	
		17.水の保全・安定供給	
		18.廃棄物の抑制とリサイクルの推進	
	5 都市基盤の健幸	19.気候変動・地球温暖化防止対策の推進	
		20.計画的な土地利用の推進	
		21.計画的な道路の整備	
		22.公共交通の充実	
		23.農業の振興	
	6 産業の健幸	24.商工・観光業の振興	
		25.企業誘致の促進と働く場の確保	

SDGs (Sustainable Development Goals)



SDGs (持続可能な開発目標) は、令和12年(2030年)までに達成すべき国際目標で、誰一人取り残さない社会の実現のために、17のゴール(目標)と169のターゲット(具体的目標)で構成されています。合志市総合計画でも、各施策に関連するゴールを掲げ、SDGsの理念を意識した市政運営を推進していきます。

3つの政策横断的重要課題を設定し課題解決に取り組みます

今後4年間にわたる6つの政策に跨る重要政策を、「政策横断的重要課題」として設定し、市民や市内外の関係機関と協力し、積極的に取り組んでいくこととします。

創造的挑戦による地域共生社会の実現

地域が新たな変革を遂げようとしている今後の4年間にわたる、これまでの政策立案・推進の枠組みにとらわれない発想の転換・意識変革を通して、創造的な施策転換に挑み続けることとし、市民が助け合い、支えあいながら多様性を理解し、将来にわたり豊かな生活を送れる「地域共生社会」の実現を目指します。

政策横断的重要課題1

安全・安心に暮らせるまちづくりの推進

具体的な取り組み(一例)

- 市民の防災・防犯意識の向上
- 交通事故防止対策
- 交通渋滞対策
- 感染症等の危機管理対策
- 子どもや高齢者の見守り環境整備

政策横断的重要課題2

「こどもまんなか社会」の構築

具体的な取り組み(一例)

- 教育環境の整備
- 家族で楽しめるイベント等の開催
- 子どもの遊べる場の充実
- 通学路の安全対策
- 少子化対策

政策横断的重要課題3

産業の共生による市経済の持続的発展

具体的な取り組み(一例)

- 半導体関連産業の市内への立地促進
- 人材不足対策
- 地下水対策
- 農業の振興と担い手の育成・確保
- 国際交流の推進
- 交流人口の拡大

「健幸都市こうし」のコンセプト

- 「元気・活力・創造のまち」実現には、市民が健康であるとともに、市行財政も健康でなくてはならない。あらゆる分野が健康で幸福な社会を目指し「健幸都市こうし」を掲げ、まちづくりを進める。
- 「健幸都市こうし」実現に向け、「市民の心と体の健康」、「地域の健康」及び「行財政の健康」を柱に取り組み。

市民の心と体の健康

➤ 健診受診率向上や手軽に取り組める健康づくりを広めることにより、市民が生涯にわたって健康で豊かな生活を送ることができるよう、**健康寿命の延伸**を目指す！

地域の健康

➤ 「包括的連携協定」等による産学官民連携を活用し、市内全域で産業活動が活発に行われ、賑わいを呼び、市民が生き生きと働くことのできる**「稼げる市」をつくる**ことを目指す！

行財政の健康

健康づくりを進め
あるべき医療費へ

市民の健康
体と心の健康

稼げる市をつくる

市の健康
健全な財政力

健康な財政と健康な市民が作る幸せなまちづくり
健幸都市こうし

運動スポーツ習慣化促進事業ご紹介 (2021年度)

スポーツ庁補助金

- 健康診断受診率の向上
- 運動・スポーツの習慣化
- 認知症予防

- 医療・介護費の削減
- 健康寿命の延伸
- 市民の健康と財政の健康

健幸都市こうしの実現

	共通目標	2020年度 結果	2021年度 結果
ア	これまで運動・スポーツを実施していなかった者が、事業への参加を通して、新たに運動・スポーツを実施するようになった割合	38%増加	37%増加
イ	これからも運動・スポーツを続けたいと思う者の割合の増加	67%増加	81%増加
ウ	参加者の週1回以上のスポーツ実施率の向上	61%増加	20%増加
エ	事業への参加を通して、健康であると感じている者の割合の増加	23%増加	26%増加

- 共通目標(ウ)が大幅なポイント減となった原因は、「昨年度事業の参加者と比べてもともと運動を実施している方が多かったため」と考えられる。
- 昨年度および今年度の取組みにおける「週1回以上のスポーツ実施率」の事前・事後の割合および増加率は以下のとおり。

年度	おもな取組内容	対象者	事前	事後	増加率
2020年度	カラダ健康プログラム	生活習慣病予備群および有病者	43%	69%	61%増加
2021年度	バーチャルウォーキング大会 ※他2取組より参加者が圧倒的に多い	市民および市内事業所の従業員	64%	77%	20%増加

- 昨年度の取組みの対象者は生活習慣病予備群および有病者であったため、普段の運動習慣がない方が多く参加されていたと考えられる。そのため、事前の運動実施率が低く、結果的に増加率が大きくなった。
- 一方で、今年度の取組みの対象者は特段の条件を設けなかったため、もともと健康関心が高く普段の運動習慣がある方も多く参加されていたと考えられる。そのため、事前の運動実施率が高く、結果的に増加率が小さくなった。
- よって、今後は対象者の特性を鑑みて事前の数値の予測を立てることで、現実的な成果目標設定を行うことができると考えられる。

①オンラインプログラム

- ジムスタッフによるレッスンをオンライン (Zoom) でライブ配信。
- 自宅での定期的なレッスンやいつでも視聴できることで、運動の習慣化に繋げる。

対象：市民(18歳以上) 市内勤務者
実施：週1回×3カ月(12回) 無料
検証：前後アンケート

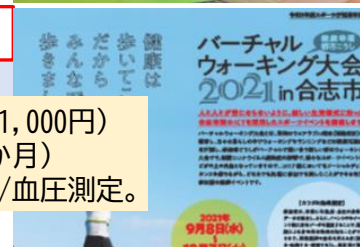


②バーチャルウォーキング大会

30日以上、7000歩/日を達成した人が、全体の70%となった

- 活動量計を装着、日常の健康活動をデジタル化しバーチャルで競い合う。
- スマホで活動量をチェックでき、変化を「見える化」
楽しみながら運動を継続できるように促す。

参加：個人、チーム (個人 1,000円)
期間：2021年9月～11月 (3か月)
検証：前後アンケート、体組成/血圧測定。



③フレイル予防とeスポーツによる認知症予防

「UDe-スポーツ推進協議会」設立へ

- 合志市社会福祉協議会連携、フレイル予防及び認知症予防実施
- フレイル予防と改善目的に、運動プログラム「いきいき百歳体操」を実施。
- eスポーツによる認知症予防教室を実施、サロン活性化を図る。
- 産学官連携により、eスポーツ認知機能効果実証。

- 「活性度」有意差あり。慣れるにつれ意欲的に取り組んでいる事を示唆
- 心理面活性化に向け、eスポーツが役割を担うツールなる事が期待された。

対象：市内高齢者サロン参加者、2ヶ所/40名程度
期間：週1回×4ヵ月程度
検証：前後アンケート。認知機能確認、体力テスト



③フレイル予防とeスポーツによる認知症予防

- ❑ 新型コロナウイルス感染症の影響で高齢者が外出を控えることで高齢者サロンの利用者が減少していることから、合志市社会福祉協議会と連携し、**高齢者**を対象とした**フレイル予防及びeスポーツによる認知症予防**を行う。
- ❑ フレイルの予防と改善を目的とした、家の中でも気軽に行える簡単な運動プログラムとして「**いきいき百歳体操**」を実施。
- ❑ eスポーツによる認知症予防教室を実施し、プログラム前後にテストを行うことで効果を実証し、コロナ禍で停滞しているサロンの活性化を図る。
- ❑ Game Wellnes Projectを実施する日本ユニシス株式会社と熊本大学（山川准教授）、九州産業大学（萩原准教授）の協力により、eスポーツの認知機能に対する効果を実証する。



【対象者】 市内高齢者サロン等の参加者
【参加人数】 20名×2ヶ所＝40名程度
【会場】 モデル地区として2箇所程度を公募
【期間】 週1回×4ヵ月程度 【定員】 1会場20名程度
【効果検証】 イベント参加の前後にアンケート調査を行う。
また、認知機能の確認に用いられる「ストループテスト」や体力テスト（Timed Up&Go等）を行う。

【成果】

- TUG検査（運動機能面）の結果から、このコロナ禍においても、全参加者が運動機能面の低下はみられずに、維持・改善できていた。
- トレイルメイキングテスト・ストループテスト（認知機能面）では効果判定が難しい状況であった。今後も継続して検査をしていく事が必要。
- 二次元気分尺度（心理面）では最終月で比較した「活性度」にて有意差がみられた。eスポーツの操作に慣れた最終月の方が意欲的に取り組んでいる事が示唆された。
- 高齢者の心理面への活性化を図る事は難しい課題であるが、今後eスポーツがその役割を担うツールの一つになる事が期待された。

UDe-スポーツ推進協議会事業

年齢や障がいの有無に関わらず誰もが参加できる「UDe-スポーツ」を通じて、以下の目的を達成する。

- 高齢者については、地域活動の促進を促し、併せて認知症予防につなげる。
- 障がい者については、外部とのかかわりなどの社会参画を促し、就労につなげる。
- 対象者を限定することなく、**誰もが「UDe-スポーツ」でつながる「ごちゃまぜ」の世界を目指す。**

※UD（ユニバーサルデザイン）…年齢や障がいの有無に関わらず誰もが暮らしやすい社会を表す概念

[操作器具、ソフト開発]



4色のボタンを叩くだけ！！

もぐら叩き

[実施場所] 高齢者サロン



障がい者就労支援施設



重度障がい者支援



「UDe-スポーツ」で誰もがつながる
「ごちゃまぜ」の世界を目指して
～合言葉は「あなたと一緒にUDe-スポーツを！！」～

独自のゲームソフトを随時開発中！！
独自のゲームソフトなので常設が可能！！

オンラインにより年齢や障がいの有無に関わらず誰
もが参加できる「ごちゃまぜ」イベント実施中！！

少しずつ注目を浴びており、各種メディアにも取り上げていただいております！！



令和4年9月25日
テレビ朝日「サンデーLive！」

令和4年10月6日
TKU「英太郎のかたらんね」



本年掲載記事

令和5年1月 1日
熊本日日新聞
令和5年1月16日
時事通信

...

UDe-スポーツについて



株式会社ハッピーブレイン 代表取締役
一般社団法人UDe-スポーツ協会 代表理事
池田 竜太 氏

株式会社ハッピーブレイン

〔所在地〕 合志市御代志1661-1ルーフ合志2階212号

〔設 立〕 令和2年8月

〔URL〕 <https://hb-e-sports.com/>



一般社団法人UDe-スポーツ協会

〔所在地〕 合志市御代志1661-1ルーフ合志2階212号

〔設 立〕 令和4年5月

〔URL〕 <https://ude-sports.com/>





<https://youtu.be/LuMfRol210Q>

(約3分)

- 「健幸都市こうし」の実現に向けて取り組んでいたこと
 - 合志市内企業がUDe-スポーツに取り組んでいたこと
 - 新型コロナウイルス感染症の影響で地域活動が縮小していたこと
 - 他自治体との連携が期待できること
- ⇒ 複数自治体が連携することが条件の県補助金を活用して事業実施へ。

〔目的（会則第3条）〕

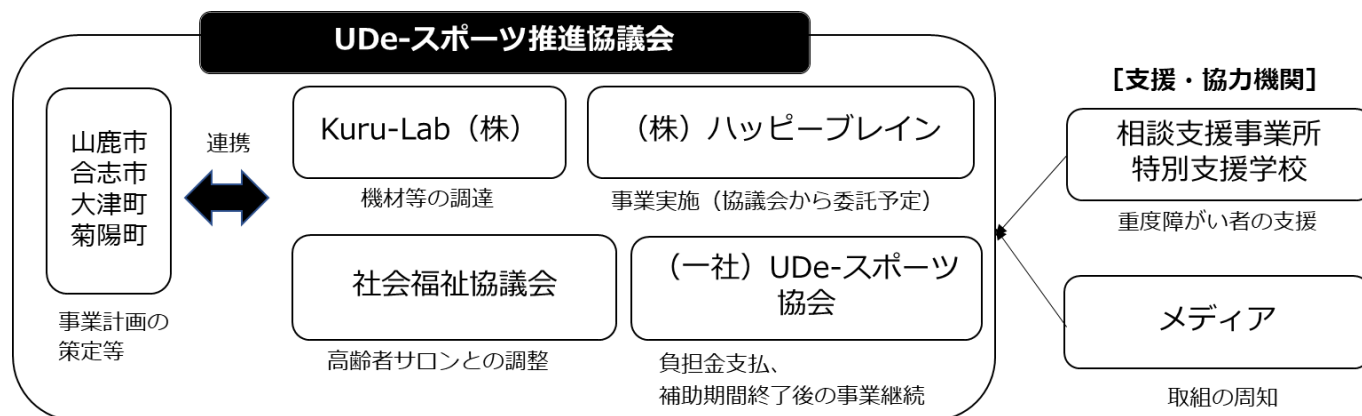
高齢者や障がい者などを対象としたe-スポーツに関する活動を行い、誰もが参加できるユニバーサルデザインな社会の実現に寄与する

〔事業（会則第4条）〕

- ・ 高齢者や障がい者などを対象としたe-スポーツの普及、啓発のための事業
- ・ 高齢者や障がい者などを対象とした交流促進のための交流会開催事業
- ・ その他、会の目的達成に必要な事業

〔設立〕

令和4年4月1日



〔会員〕 令和6年5月2日現在 10者

Kuru-Lab株式会社、株式会社ハッピーブレイン、社会福祉法人合志市社会福祉協議会、社会福祉法人山鹿市社会福祉協議会、社会福祉法人菊陽町社会福祉協議会、一般社団法人UDe-スポーツ協会、山鹿市、合志市、大津町、菊陽町

令和4年度の本会設立以降、熊本県広域連携プロジェクト（スクラムチャレンジ）推進補助金を活用し、以下の目標に対してそれぞれ取り組んできた。

目標とこれまでの取組み

- ・高齢者の認知症予防、障がいのある人の社会参画、就労支援、UDe-スポーツの普及啓発を担う人材育成に向けて関係機関と連携し、多くの市民にUDe-スポーツの楽しさや効果を実感してもらう
↳ **高齢者サロン等における体験会・イベント交流事業**
- ・この取組の中で、認知機能測定やアンケートを行い、参加者自身の気づきや行動変容を促すとともに、人材育成を通じて職場や地域での主体的な活動につなげる
↳ **人材育成事業**
- ・重度障がい者であっても、UDe-スポーツをきっかけとして社会とのつながりを実感し、就労へのチャレンジを後押しする
↳ **重度障がい者の自立支援**
- ・市ホームページやメディア等を通じて、UDe-スポーツの取組が一人でも多くの市民に広まり・理解が進むように周知活動に努める

課題

本協議会の目的を達成するため、補助金に依存せずに、いかに現在の取組みを継続（自走化）していくか。その際、契約者（機材購入、毎月利用料支払い）と人材（現場の接続・操作等）の確保が必要。

UDe-スポーツ推進協議会の将来的に目指す姿

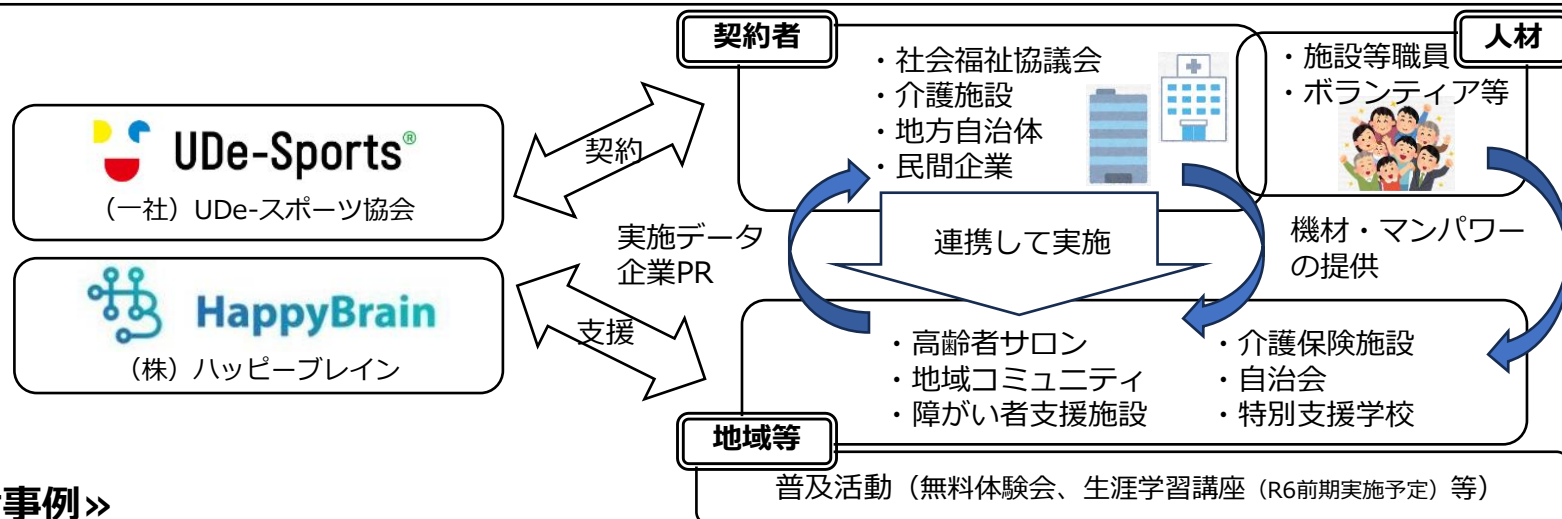
R6.5.2

UDe-スポーツ推進協議会
令和6年度定例総会資料

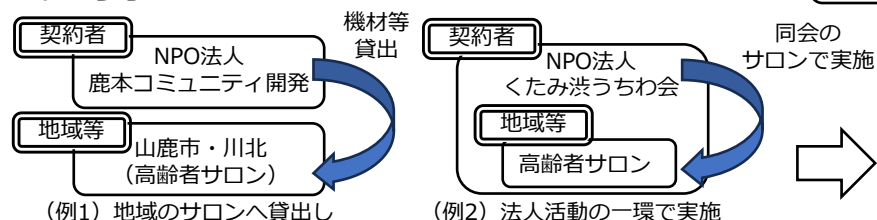
課題

補助金に依存せずに、いかに現在の取組みを継続（自走化）していくか。
その際、契約者（機材購入、毎月利用料支払い）と人材（現場の接続・操作等）の確保が必要。

地域の状況に応じた継続体制の構築を目指し、契約者の候補への働きかけ及び連携した体験会等の開催に取り組む。



参考事例



令和6年度にかけて、左のようなモデルケースの複数構築を目指す。

R6ポイント

- 山鹿市、合志市の取組みに大津町、菊陽町を加えた4市町で実施。
- 民民連携を構築し、UDe-スポーツを通じた健康な社会の実現につなげる。

更なる普及

連携構築

ウェルネスシティこうし

ウェルネスシティこうしは、市民の健康増進と併せて将来的な医療費削減、地域版ヘルスケア産業の育成環境整備を目的に、平成27年に設立しました。事業前後に数字の変化を見せるなど、企業等のノウハウを活用しながら、市民が自ら健康や運動に関して、「気づき」、「行動し」、「継続する」ことを支援しています。

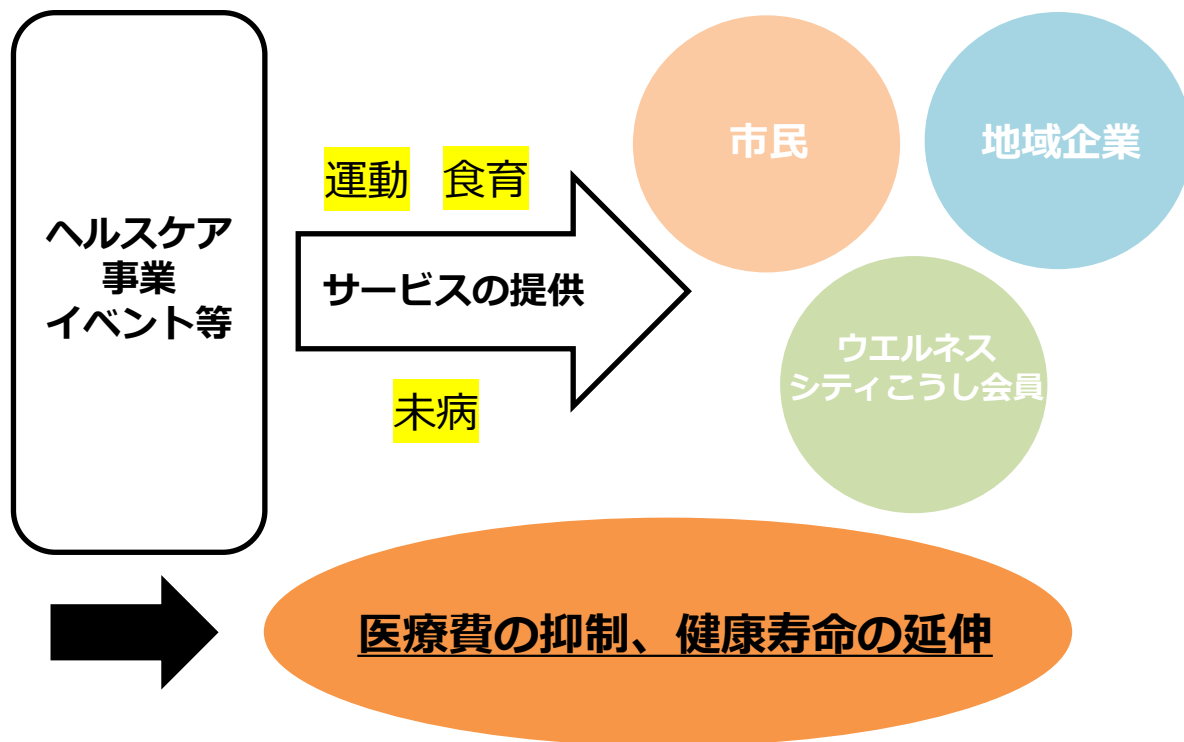
第2次合志市健康増進計画・食育推進計画

■正会員（12団体）

- ・合志市
- ・公立菊池養生園保健組合
- ・(株)H&Sプロモーション
- ・(一社)クラッシーノこうし
- ・Kuru-Lab(株)
- ・(株)藤本物産
- ・(株)ぞうさんのはな
- ・(株)セイブクリーン
- ・セイブ管工土木(株)
- ・(株)くまもと健康支援研究所
- ・合志市商工会
- ・BIPROGY(株)

R6.6.13時点

■その他関係機関



e-スポーツでの交流促進と新たな認知機能改善業務

UDe-スポーツを活用することで、地域で交流を図りながら、認知機能の検査を行えるシステムを確立します。地域住民主体で「認知機能低下予備軍の早期発見を可能にする」また「eスポーツを通して交流促進ができる」ことで、高齢者を見守る地域包括ケアシステムの基盤を作ります。

Ⅱ.データ取得（実証事業）

①高齢者サロンにて認知機能検査を実施

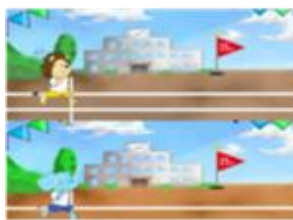


認知機能検査

注意力
動体視力
判断力
記憶力

UDe-スポーツ認知
機能検査

②eスポーツの効果測定を実施



UDe-スポーツ



UDe-スポーツ認知
機能検査

MoCA-J

両検査の相関を
調査

Ⅰ.システム開発（開発内容）

①データベースシ ステムの開発



データの蓄積、
年代別の平均値
の算出

データの蓄積、
認知機能面に変化
があるかを調査

蓄積したデータ
ベースの2次利用
を検討

より信頼性の高い
フィードバックが
可能

年齢や性別など、
匿名化したデータ
を取得

②検査結果フィード バックシステムの改良

認知レベル測定
注意力 40点
動体視力 30点
記憶力 35点
記憶力 50点

総合評価 B

紙面（カルテ）



